

## 化学技術者人材育成に関する提言

2011.12.16 産業界交流委員会

化学工学会では、産業界交流委員会での議論を踏まえて、今後の化学工学の方向性に関する提言を行ってきた。日本の産業界において、現在抱える多種多様な課題を克服し、提言に掲げた新しい化学技術を醸成しこれまで以上の発展を進めていくには、若い世代の活躍が大前提である。ここでは、産業界の視点から求める人材像を簡潔にまとめ、今後、学会として進めていくべき方向性を示す。

人材育成に関しては、これまで化学工学会人材育成センターにおいて何年かに一度提言されてきている。本提言内容もそれらと本質的に変わるものではない。化学産業の発展には、生産技術力の維持向上が基本となる。これに加えて、益々激化する国際競争、不断の差別化製品開発などの課題にも対応していく必要がある。これらの課題、新たな展開に対応できる人材として以下の要素を涵養することが望まれる。

- (1) 基礎学力，論理展開力に裏打ちされた課題解決力，創造展開力
- (2) 全体的な視野で物事を判断できる俯瞰力
- (3) 国際的に通用する胆力，コミュニケーション力，リーダーシップ力

これらの能力を育成するには、大学においては、実験と演習に重点をおき、これまで以上に化学工学の基礎知識を使える道具として修練することが必要である。また、複線化、機能分担が進む中、学会においては、産業界と大学との対象やアプローチの違い・溝を埋め、育成のシームレス化を図るために、これまでよりも一歩踏み込んだ産学連携人材育成の方策を考えていく必要がある。その方策として、以下のような項目が挙げられる。

- (1) 教員も関与したインターン研修の充実
- (2) 安全など大学では教授が困難な分野の教育
- (3) 若手教員と企業技術者の課題を設定した交流
- (4) 特定の生産技術課題解決に特化した研究コンソーシアム等での若手教員，学生の育成
- (5) 上記育成を一定レベルで確実に実施するための産学共同の教科書発刊

これらの項目のいくつかは支部活動として実施することが最適で、支部の役割もさらに高まっていくものと考えられる。是非、化学工学会においては、上記の提言を具現化する活動を進め、産学協調して、将来にわたって優れた化学技術者人材を育成されることを期待するものである。

### 産業界交流委員会

委員長 前 一廣（京都大学）

委員 阿尻雅文（東北大学）， 伊藤真一郎（住友ベークライト株式会社），  
伊吹一郎（旭化成ケミカルズ株式会社）， 井村晃三（日揮株式会社），  
宇野研一（三菱化学株式会社）， 大久保達也（東京大学），  
川瀬健雄（千代田化工建設株式会社）， 河瀬元明（京都大学），  
後藤雅宏（九州大学）， 永原 肇（旭化成ケミカルズ株式会社），  
中江清彦（住友化学株式会社）， 濱村光利（東洋エンジニアリング株式会社），  
船越良幸（三井化学株式会社）， 細田 覚（住友化学株式会社）